

# こうとう民報

2016年11月号 144

江東区の職場・地域、議会などくらし・平和を守る運動をご紹介します。

発行 とうとう民報編集委員会  
責任者 猪又 武夫  
住所 江東区東陽2-3-5-203  
電話3648-5155FAX3648-5137  
ホームページ  
http://www.koto-minpo.jp/

# 戦争法廃止 憲法を守り暮らしと平和を守ろう!



## 第44回大会・生活と健康を守る会

江東生活と健康を守る会は第44回大会を11月3日、大島文化センターで開催し、地域にねざした活動をさらに強める方針を決定しました。

佐藤巖会長は1年間の活動を振り返り、「戦争法ぶつ潰せ江東行動実行委員会」に参加して戦争法に反対する署名に積極的に取り組み1386人が集約されたことを報告しました。

7月の参議院選挙では、全国1人区での野党共闘が進むなかで統一候補11人が当選したこと、築地市場の豊洲への移転問題では、土壌の汚染物質を密封するための盛土対策がされず、建物の地下が空洞になっており、食の安全が守られないなどの問題が日本共産党議団の調査で明らかとなり、マスコミも含めて全国的に大問題となっていることも報告されました。

要求活動では、全生連や都生連と協力して会員からの要求実現をめざして政府や都、区に交渉するなど奮闘してきたことが強調されました。

都営住宅入居相談会では90人、税金相談は188人の相談者があり、都営住宅問題で3世帯、税金相談では24世帯が新たに会員に、「守る会」新聞は22人が新たに読者になりました。相談活動が組織の拡大にもつながったことが報告されました。

今後の活動方針では、社会問題となっている「孤独死」を防ぐために班会議が大きな役割を果たすことが指摘されました。



写真中央は、会場いっぱいのお客様を前に報告する佐藤巖会長。

11月8日から15日までの1週間、江東区越中島3丁目にある都立第三商業高校前の交差点に移動式の自動車排ガス測定器が設置されました。

交差点を挟んだ同高校の斜向かいでは、福山通運の巨大なトラックターミナルの建設工事が来年1月の運用開始に向けて進んでいます。

運用が始まると大型トラック・トレーラーが1日210台、2t・4tのトラックを合わせると最大1488台の出入りが発生します。さらに

### 住民要求が実現 都立三商前交差点で排ガス測定

2t・4t車200台が屋上の駐車場に入ります。ターミナル両側に設置されたランプ（建物内の坂道）を通行します。

### 住民のみなさんの陳情が実現しました

福山通運に隣接する越中島3丁目ハイツ住民は、ランプ

内の排気ガスが屋上部分からそのまま外部へ排出される構造となっているため、ディーゼル車の排ガスによる環境悪化を防ぐための浄化装置設置

を福山通運に求めるとともに区議会にも陳情を提出していました。



陳情審査で区は「福山通運は運用開始後に排ガス調査をする」など調査に消極的でしたが、「事前の調査がなければ、運用後の比較ができません」ということから調査に踏み切ったものです。

越中島3丁目ハイツ住民が求めてきた周辺の歩道拡幅など交通安全対策も実現しています。

## 第28回 子どもを語るのびん

11月13日、「第28回子どもを語るのびん」がカメラアンプラザで開かれました。労働経済ジャーナリストの小林美希さんが「欲しいのは、安心して預けられる保育園」をテーマに講演。民間保育園の保育士、「待機児童を考えるママの会」ら1550名余が参加しました。

小林美希さんは、政府が進めている保育所の規制緩和の結果、保育現場で起きている深刻な現状を告発しました。

待機児解消の名目で政府は2017年度末までに50万人の受け入れを確保するとして、

民間会社の保育施設運営の規制緩和が実施され、民間保育所建設が6年間で400倍を超える勢いで急増。株式会社での参入で保育現場では、保育所と幼稚園とが一緒になった「子ども園」が増やされ、公立などの認可保育所が減少するなどの矛盾が起きていることを紹介しました。

株式会社の新設園では、3歳児クラスを3人の保育士で13人の子どもの見るという信じがたい状況もあり、「箱モノはできたが、ソフト面が不十分で遊具が足りず、保育士が身銭を切っている」園や、1カ月も散歩に行けない園もあることも紹介されました。

募集内容とかけ離れた労働実態に、1年で保育士全員が退職した園もあり、保育の質の後退の背景に保育士の過酷な労働実態があることも厳しく批判しました。

ママの会の女性は「保育園落ちた、日本死ね!」の投稿と同じ思い、「保育の環境を変えていく原動力は子育て世代の私たちや保育士の声です。社会に発信しよう」と呼びかけました。

## 朝鮮

澄みきつた秋空が続いて、銀杏並木も黄ばむ紅葉狩りの季節になりました。韓国では10

0万人余の大統領弾劾の「恨」デモ。米国では大統領選の想定外の結果。国内で反トランプデモが続発し、海外にもトランプ旋風が吹き荒（すさ）びました。世界の警察官を自負し、地球規模で戦争を展開してきた大国の終わりの始まりといわれます。人民の革命権を掲げた独立宣言から240年。軍産共同体の支配下で戦争中毒におかされ、99%運動など貧困と格差の拡大によって衰退の一途をたどってきました。日米同盟は「普遍的価値」によって結ばれていると強調する安倍首相は、安全保障という戦争法、自由貿易というTPPなど、騙し打ちで強行した挙句、宿願の憲法改悪へ突き進みます。個人の尊厳を柱に、平和・民主主義・基本的人権など、人類が到達した価値観を刻む現憲法は公布から70年、ポロポロにされてはいても手放してはならないものです。「他山の石」といいます。米国の二大政党制は「嫌われ者同士」の二択で国民を真二つに分断する悲劇を生みました。小選挙区制で翼賛政治を維持してきた日本では、沖縄のように本気で取り組む野党共闘の勝利が政治不信の多くの国民に大なる希望となり、主権者としての自覚を呼び戻すことになるでしょう。

# 江東区の成立



## 概説 江東の歴史 (62)

江東区は、1947(昭和22)年に深川区と城東区が合併してできました。東京都は、戦災による人口の減少する区と増加する区ができたために、一つの区を10万平方キロ以上とし、35区を23区に統合することにしました。

新しい区名は、深川の「江」と城東の「東」を合わせた江東区として、3月15日に誕生しました。その年の人口は僅か9万6,870人、面積は22万平方キロでした。

(注)2012.6.1現在 人口47万8,828人

区役所は、白河1丁目の深川区役所の庁舎におかれ、城東支所は亀戸9丁目、後に大島3丁目におかれました。

区議会議員定数は30人、51年から40人に改められます。初代議長は魚住芳平、初代区長は二瓶哲治が選出されました。区長公選は52年の地方自治法改正で、区議会が省庁の同意を得て選任することになります。47年12月から「区政ニュース」を発行、51年に「江東区報」と改称されます。

区の公共文化施設として、52年に城東支所の隣に1階建ての小さな城東公会堂を開設しました。

警察署は自治体警察となり、平野1丁目の深川警察署と北砂1丁目の城東警察署は、公安委員会のもとにおかれることになりました。(注)警察の民主的運営を管理するため、47年の警察法によって、自治体の首長が議会の同意を得て、民間人を公安委員に任命する。

郵便局は、永代1丁目に深川郵便局、大島3丁目に城東郵便局がありました。

民生事業として、亀戸9丁目に江東福祉事務所をおき、平野、扇橋、洲崎、砂町、亀戸の出張所を統括しました。47年には毛利町に区立保育園を開設、間もなく都立になります。

珍しいものに、区立の質屋がありました。戦前の三好3丁目の都営深川公益質屋を、52年に区営としたもので、大島2丁目にも城東公益質屋を開設しました。

12月6日(火)19時	江東区民センター(総合区民センターレクホール)
12月11日(日)14時	砂町の会 第3回「日本国憲法」学習会
12月18日(日)14時	戦争法ぶつ潰せ江東集会Xマスパレード (東陽公園、門前仲町まで)

# 「ディーセント・ワークの実現と労働組合の役割」

(人間らしい働き方)

初めに区労連未組織対策委員会が、労働相談内容を報告。相談の多くは解雇・雇止め・退職に関するもの、「いじめ・嫌がらせ・セクハラ」がそれぞれ31.4%、31.4%、31.4%。労働条件に関するもの



続いて「ディーセント・ワークの実現と労働組合の役割」をテーマに木下武男氏(昭和女子大学名誉教授・労働社会学)が記念講演しました。木下氏は「貧困、過酷

年に数回の拡大月間を設けて地域の建設職人の組織化を行う東京土建江東支部、ある職種を中心に困難な中で非正規労働者の組織化をとりくむ公共一般江東、地域労組こうとう、機関紙印刷労組の各労組からこの間の未組織労働者の組織化などのとりくみの報告がありました。

江東区労連は11月18日、亀戸文化センターで「第34回秋の学習と交流のつどい」を開催し、15労組から47名が参加しました。



長澤氏は、安倍首相が任期中に改憲を成し遂げようと執着していることを挙げ、改憲草案の危険な問題点を急いで広めていくことを強調。改憲草案の特徴は「憲法第9条の恒久平和主義の破壊(「国防軍」創設)、人権保障規定の圧殺、立憲主義の否定が「三つの本丸」だと分析しました。

「自民党改憲草案はいかに危険か」を学ぶ。永久平和主義破壊など「三つの本丸」を学ぶ。さらに改憲草案は、侵略戦争を反省して不戦平和を誓い、平和的生存権をうたう日本国憲法の前文すべてを削除するだけでなく、天皇制国家へ逆戻り、国会の形骸化と首相権限の強化、家族主義を強調して「道徳を憲法の中へ持ち込む」内容であることも、わかりやすく解説しました。また、神社本庁や霊友会などの「日本会議」の『草の根』に対抗する動きを軽視しないことも強調されました。

労働、雇用不安の三つが今の労働者の悲惨な状態の特徴である」と切り出し、雇用状況、賃金低下、非正規の増大など98年を機に悪化していることや、労働運動後退の経過などを説明しました。労働運動の再生については、現状をつかんだうえで、発想を変えて、それぞれの業種別・職種別ユニオンによる組織化を進めることの重要性を述べました。

会などの「日本会議」の『草の根』に対抗する動きを軽視しないことも強調されました。



11月13日午後、新砂のショッピングセンター・スナモ前で、「砂町の会」のメンバー10数人による戦争法廃止を求める宣伝・署名活動が行われました。買物帰りの若いお母さんが自転車を止めて署名するなどの光景が見られました。